

# 公 民

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践

### (2) 研究のねらい

安全保障における2つの安全保障システムの知識と、現在の日本と周辺諸国を取り巻く国際情勢を関連付けながら、生徒自身の考えを求める問いや、ICTを用いた他者との意見共有を通じて、主体的・対話的で深い学びの実現をめざした。

## 2 実践事例

### (1) 単元指導計画

ア 科目名：政治・経済

イ 単元名：現代の国際政治

ウ 単元の目標：国際政治が、安全保障の問題、国際情勢の変化による株価や為替の変動、それにもなう物価の変動など、生徒の日常生活に大きく関わると理解する。これにより、主体的に学ぶ態度を養いながら、国際平和と人類の福祉に寄与しようとする自覚を深める。

【単元を貫く問い】私たちの安全はどのようにすれば保障されるだろうか。

エ 単元の評価規準 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：資料活用の技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
国際政治について、国際社会の仕組みや国際組織の役割に関心を示し、学ぶ意欲を持ち、主体的に解決しようとしている。	国際政治の諸問題について多面的・多角的に考察し、「幸福・正義・公正」などの観点から自分の意見をまとめ、適切に表現している。	国際政治に関する諸資料、教科書・資料集・その他新聞記事にあるグラフ等の資料を適切に選択し、活用している。	国際法と国際社会の仕組み、国際組織や安全保障の仕組み、国際貢献などそれらの役割について理解している。

### オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習内容及び学習活動	評価の観点				評価のポイント・指導上のポイント
			a	b	c	d	
1	1	<p><b>【本時の問い】「国」とはなにか。</b></p> <p>【国際関係と国際法】</p> <p>○国家の条件を確認し、国際政治の成立について理解する。</p> <p>○国際法と国内法を比較し国際社会について考察する。</p>				●	<p>国家の条件について理解し、その知識を身に付けている。</p>
				○			<p>国際法の性質に着目し、国際社会について多面的・多角的に考察している。</p>
2	2	<p><b>【本時の問い】国際社会に秩序はあるか。</b></p> <p>【国際社会の変化】</p> <p>○戦争が国際社会でどのような位置付けにあったのかを確認する。</p> <p>○国際社会が人権保障の実現に向けてどのように歩んできたかを確認し、将来予想される課題を考える。</p>	○				<p>違法化された戦争、国際的な人権保障の実現について、解決していかうとする態度を身に付けている。</p>

3	3 本時	<p><b>【本時の問い】 日本の安全をどのように確保すればよieldろうか。</b></p> <p><b>【勢力均衡と集団安全保障】</b>  ○国際連盟と国際連合の成立を学ぶなかで、勢力均衡と集団安全保障の特徴を理解する。  ○勢力均衡と集団安全保障の仕組みが、私たちの日常にどのように関わっているかを考える。  <u>○これからの日本の安全は、どのような安全保障の仕組みに基づくべきかを考える。</u></p>				○	<p>勢力均衡と集団安全保障の特徴についての資料を収集し、適切に読み取っている。</p>	
						●	<p>勢力均衡と集団安全保障が、日本の安全にどのように関わっているか多面的・多角的に考察し、表現できている。</p>	
4	4	<p><b>【本時の問い】 国際連合は国際社会にどのように貢献しているか。</b></p> <p><b>【国際連合の仕組み】</b>  ○国際連合の組織について理解する。  ○国際連合が国際社会においてどのような役割を果たしているか考察する。</p>				○	○	<p>国際連合の現代における役割について考察し、適切に表現できている。</p>
5	5	<p><b>【本時の問い】 大戦後、世界は平和になったのか。</b></p> <p><b>【第二次世界大戦後の国際政治】</b>  ○冷戦体制が成立した背景と経緯を理解する。  ○冷戦体制終結までの経過を確認し、国際社会がどのような状態に置かれていたかを、資料を基に考察する。</p>				○		<p>冷戦体制が国際社会にどのような影響を与え、どのように受け止められていたかを、資料を収集・選択し考察の根拠にできている。</p>
6	6	<p><b>【本時の問い】 冷戦後、国際秩序はどのように変化したか。</b></p> <p><b>【冷戦終結後の国際政治】</b>  ○冷戦後、地域・民族紛争や難民問題が噴出したことを、資料を基に考察する。  ○アメリカの同時多発テロは、国際秩序の変化にどのような影響を与えたかを確認する。</p>				●		<p>冷戦後の国際秩序において、国際社会の単位が国家のみではなくなったことを考察している。</p>
7	7	<p><b>【本時の問い】 戦争はコントロールできるか。</b></p> <p><b>【軍拡競争から軍縮へ】</b>  ○核兵器や軍拡競争がもたらした世界へのリスクについて、生徒自身に関わることと捉え、どのように解決すべきかを考える。</p>				●		<p>核兵器や軍拡競争がもたらすリスクについて主体的に考察し、解決していこうとする態度を身に付けている。</p>
		<p>○軍縮の現状と課題について学んだ上で、どのような国際秩序の枠組みが必要かを考察し、表現する。</p>				○	<p>これからの国際社会のあり方について考察し、適切に表現できている。</p>	

力 授業実践例

授業展開	学習活動	指導上の留意点	評価方法 【評価の観点】
導入 5分	<p><b>【本時の問い】 日本の安全をどのように確保すればよいだろうか。</b></p>		
	<p><b>【発問1】 あなたは安全に生活していますか？</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数名指名する。</li> <li>・生徒の直感で答えて良いと伝え、答えやすくさせる。</li> <li>・生徒の答えについて、評価はしない。</li> </ul>	
	<p><b>【発問2】 近隣諸国との関係の中で日本は安全か？</b></p>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・数名指名する。</li> <li>・画面上のヒントに注目させ、答えやすくする。</li> </ul>	
展開 40分	<p>○勢力均衡システムは、どのような特徴があり、どのような欠陥があったかを、教科書を基に確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に教科書を音読させる。</li> <li>・教科書の文言、図を丁寧に確認させながら答えさせる。</li> </ul>	Google フォーム ワークシート 【c】
	<p><b>【設問1】 勢力均衡システムの特徴と欠点を説明しなさい。</b></p>		
	<p>○Googleフォームのワークに答える。</p> <p>○第一次世界大戦が、勢力均衡による秩序の崩壊によって起こったことを確認する。</p> <p>○集団安全保障システムの特徴を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Googleフォームの回答をスクリーンに映して共有する。</li> <li>・第一次世界大戦の説明に時間をかけ過ぎない。</li> <li>・教科書の文言、図を丁寧に確認させながら答えさせる。</li> </ul>	
	<p><b>【発問3】 集団安全保障と勢力均衡との違いは何か？</b></p>		
	<p>○日常生活で考えられる事例を基に、勢力均衡と集団安全保障の仕組みを考えさせる。</p> <p>○国際連盟の成立と課題を学びながら、集団安全保障の課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正解を明言しない。これを足掛かりに勢力均衡と集団安全保障の理解を深める。</li> </ul>	

	<b>【設問2】 これからの日本の安全をどのように守ればよいかを考え、それが勢力均衡・集団安全保障どちらの仕組みに近いかを示しなさい。</b>		
	○Googleフォームのワークに答える。	○Googleフォームの回答をスクリーンに映して共有する。	Google フォーム ワークシート 【b】
まとめ 5分	○【設問2】の発表を振り返りながら、勢力均衡と集団安全保障の仕組みと欠陥に触れる。		

研究実施校：神奈川県立秦野曾屋高等学校（全日制）  
 実施日：令和4年11月2日（水）  
 授業担当者：河崎 千愛希 教諭

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

### ア 題材について

本研究においては、「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけて、より多面的・多角的に考察することが求められる国際政治の単元を選んだ。その中で、実践事例となる本時の研究授業では「安全保障システム」を題材として取り上げた。日本を取り巻く国際状況の変化と、これからの安全保障については多様な議論の余地があるが、公民の一人として社会形成に向けた責任ある行動のために、個人の思想や嗜好のみに依らず、安全保障システムとして定説化された「勢力均衡」と「集団安全保障」の理論を用いて考察させることをねらいとした。

また、国際政治についてはスケールが大きく敬遠しがちな生徒もいることもあり、実感を伴った理解を実現するために、生徒の日常生活に関連した授業の進行を意識した。ただし、国家間の安全保障システムを個人の社会生活にそのまま落とし込むと誤解を生む恐れがあるのでこの点には留意した。

### イ 手法・展開について

研究テーマである「主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践」について、主体的な学び、対話的な学び、深い学びについて次のように整理した。主体的な学びは、学ぶことに興味や関心を持ちながら、生徒が自身の生活と関連付け、新たな課題に気付き考えることで、深い学びにつながる。具体的な手法として、勢力均衡と集団安全保障の考え方を学校生活などにおける生徒個人の日常の安全に置き換え、クイズ形式で比較させた。

対話的な学びは、生徒同士の協議がよく注目されるが、今回は、「教職員との対話」や「先哲の考え方を手掛かりに考えること」に着目した。教員の問いに対する思考や、知識を相互に関連付けた思考が、深い学びにつながると整理した。具体的な手法として、教科書に示された勢力均衡と集団安全保障の仕組みを整理させ、同じく現代の「日本の領土をめぐる情勢」についても理解させ、これらの知識を相互に関連付けて思考する問いとして「これからの日本の安全をどのように守れば良いか」を設定した。

また、生徒の意見共有や指導に生かす評価を実現する手段としてGoogleフォームを使用した。設問1・2については、生徒が考えた回答を生徒自身がGoogleフォームで入力し、その結果を教室にあるディスプレイに映し、これについて説明や評価を行った。指名や挙手による意見の発表ではクラス全体の意見をすくいあげられないが、Googleフォームでは回答者全員の回答を共有でき、さらにディスプレイで文

章化された意見を表示することで、講評や指摘など指導に生かす評価も分かりやすくなるという利点があった。

#### ウ 最後に

学習指導要領にある「対話的で深い学び」の定義を良く見てみると、グループワークだけではなく「教職員との対話」や「先哲の考え方を手掛かりに考えること」も対話的で深い学びの実現に関わっていると分かる。

また、今回「主体的な学び」にある、「学ぶことに興味や関心を持つ」という文言にもこだわった。生徒が学ぶ理由、我々が教員である理由の根源がここにあるのではないかと思うからだ。生徒が興味や関心を持てるかという視点を一貫して維持できた。生徒の生活と関連させて授業をすることが必要であるというように、研究授業のための非日常の授業ではなく、普段通りの授業を目指した。研究授業ではあるが、教員の都合で進度を変えることなく年度当初に計画した単元構成で研究授業を実施できたことも成果としたい。

3 国際連合と国際協力

教科書P.54～P.55資料集P.90～P.95

① 国際連盟の成立と崩壊

○ (1, ) 方式・・・17世紀～19世紀のヨーロッパで主流となった、国家間の力を均衡させることで、国家による侵略を防ごうという考え方。



(2, ) 大戦 (1914～1918) を招く一因に

○第一次世界大戦の反省から、安全保障の在り方が勢力均衡方式

⇒ (3, ) 方式へ。

↳ 国際社会の組織化が目指され (4, ) が創設された。

○国際連盟設立

- ・ 設立の背景 — アメリカのウィルソン大統領—平和原則14ヶ条の発表 (1918年)  
加盟国の国際紛争の軍事的解決の禁止、秘密外交の禁止、民族自決、国際連盟の設立

○問題点

- ・ (5, ) 方式・・・足並みをそろえることが出来ず、有効な決定できなかった
- ・ (6, ) 制裁のみ・・・軍事的な制裁を行なえず、強制力が乏しかった。
- ・ 主要国の不参加、脱退・・・アメリカ参加せず、ソ連途中参加 (1934)



(7, ) 大戦 (1939～1945) の勃発を防げなかった。